

令和6年7月18日

大田市教育委員会
教 育 長 武 田 祐 子

大田市スポーツ推進審議会
委員長 安 田 隆 司



建 議 書

令和6年6月19日付け大教社第10411号で諮問のあった、2030年に島根県で開催される第84回国民スポーツ大会において、大田市が競技会場に予定されている空手道・銃剣道・弓道の競技人口拡大並びに競技力向上の具体的な取り組みについて、審議した結果、次のとおり建議します。

記

1. 情報発信の強化

大田市で開催される3競技については、その競技内容を広く市民に情報発信し、市内での競技の認知度を高めることが必要と考える。

2. 競技人口拡大の取り組み

大田市で開催される3競技の中で、大田市スポーツ協会に加盟している競技団体は弓道のみである。そのため、まず、弓道の競技人口の裾野を広げることに専念されたい。市内小学校や地域で体験教室等を開催し、多くの人々に競技の魅力を伝え、競技人口拡大を図る取り組みが必要と考える。他の2競技については、大田市スポーツ協会に加盟の可能性を模索されたい。

3. 競技力向上の取り組み

弓道については、大田高校が強化指定校になる取り組みを進められたい。市全体では、大田市スポーツ協会に加盟する競技団体が競技力の向上を図る取り組みを行うことが適当であり、その活動が活発になるようサポートすることが必要と考える。

4. 審議経過(審議会での委員の主な意見)

【情報発信】

- ・2030年の島根県開催の国民スポーツ大会で大田市を会場として、どんな競技がおこなわれるのか知らない人がほとんどである。まずは知ってもらう取り組みが必要。
- ・大田市民が知らないと応援することにも繋がらない。まずは、興味を持ってもらうことが必要。
- ・3競技が開催されることや競技の魅力を分かりやすく紹介するなどの情報発信が必要。
- ・弓道は、今でも市内で活動されている学校や団体がある。中高生等の活躍を銀山テレビで放送するなどして、まずは小学生に興味を持ってもらい、やってみようかなと思ってもらえるような取り組みを実施してほしい。

【競技人口拡大】

- ・大田市が開催予定の3競技のすべてにとりかかるのではなく、環境的にも弓道に集中して取り組む方が良い。
- ・大田高校が弓道の強化指定校になれば、市外へ進学する生徒が大田高校への入学を希望するようになる。また、その姿を発信していくことで市内の競技人口拡大に繋がる。
- ・2030年に高校生になる小学校高学年の児童を対象とした、弓道の体験会を開催し、興味を持たせ中学生になってやってみようという関心を高める取り組みが必要。

【競技力向上】

- ・大田高校が弓道の強化指定校になり、良い指導者を配置することで大田高校に人が集まり競技力向上に繋がる。
- ・良い指導者を配置することもよいが、大田市内には経験豊富な経験者がいる。その人たちに手助けをしてもらいながら、競技力向上の取り組みを行うことが必要。
- ・2030年の国スポに向けて、大田市全体で頑張っていこうというような盛り上がりを作っていないとスポーツで実力のある子がみんな大田市から出ていってしまう。
- ・大田市スポーツ協会として、金銭的な支援として大田高校、瀬摩高校などをサポートしていく方法もある。
- ・中学校の部活動の指導者は、学校の先生で、人事異動もあり指導できる先生が国スポの開催までずっと配置されるわけではない。現在、部活動を地域に移行する流れでもある。2030年を見据え、強化していこうとするならば、長期的に育てる体制を弓道でモデルとして作っていく方法も考えてほしい。